

- 会報は電子版だけよいという会員に対してはその連絡を受ける体制を整備し、郵送しないことで費用の削減を図る。
- 会報発行検討委員会では、他の同窓会(くすのき会、緑窓会等)の会報発行回数は年1回であることから、まず、会報の発行を年2回から年1回に削減し、イベントの連絡についてはハガキなどにより行うことに異論はなかった。会報編集の人的なりソースの不足も考慮する必要がある。
- しかし、その実施年度を2025年度とするのか、2026年度にするのかで、意見は分かれた。

◇ ◇ ◇ ◇

- 2025年3月14日(金)に第3回検討委員会を開催した。
- 2025年度のゆうメールの料金は、銀座郵便局との「ゆうメール運送業務委託契約」により年間5万通以上(現在は年間5万2000通を発送)の封書については、1通あたり61.82円<定形サイズ・100gまで>となっており、前年実績に基づき現在の契約が2026年7月31日まで自動更新されることがわかった。ゆうメールの場合、封筒郵便は荷物扱いとなるため郵便料金の値上げにかかわらず据え置きとなる。(資料:11ページ)
- しかし、発送部数が2.6万~2.7万通に半減となると、1通あたりの郵便料金は80~90円(参考値)となる。また、ハガキについては、荷物扱いにならないので通常料金85円となることもわかった。
- 現在、会報は年2回発行し封書で送付しており、会報作成費用と郵便料金、封入封緘費用ほかを合わせて年間593万円の費用がかかっている。(パターンA)
- このパターンを、会報の発行を年1回にし、イベント等のお知らせをハガキで送付する場合(パターンB)と、会報の発行回数を年1回にし、イベント等のチラシを封書で送付する場合(パターンC)との比較を試算した。(資料:12ページ)
- 試算によるとパターンA(会報+会報)とパターンB(会報+ハガキ)の費用にはほとんど差がないが(ゆうメールの単価のアップとハガキの郵便料金が通常料金となるため)、パターンC(会報+チラシ)では現行のゆうメール料金が適用されるため約60万円の費用削減となる。因みに会報を年1回の発行とするパターンDでは、ゆうメールの単価アップはあるものの、年間の費用削減効果は230万円と大きくなることが見込まれる。

◇ ◇ ◇ ◇

- 今後、会報の発行を年1回とした場合には、カラー化を含めた紙面の一新や会報のデザイン料などの削減なども検討項目となる。
- 実施時期を2025年度とするか、2026年度からするか、またどのパターンで実施に移すかは、執行部の判断にすることとしたい。

以上

会報発行検討委員会メンバー:

木村紀美子(15期)、向山康子(20期)、*脇屋 元(22期)、松島香織(23期)、鵜飼道子(26期)、吉野寛美(29期)、木村誠二(33期) <卒業期順、*委員長>